

教員氏名：望月 文代（教育学科・児童教育専攻／准教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

教育学部教育学科 児童教育専攻 幼児教育コースに所属し、主に幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方に関連する領域「健康」・領域「環境」の専門的事項や指導法に関する授業や、幼稚園教諭免許状を取得するために必要となる「幼児教育実習」「幼児教育実習事前事後指導」を担当している。

学部においては、1年次生から4年次生まで「ゼミ」「教育学研究法」「卒業研究」等において担任を担当している。令和8年度は、1年学年団を担当しており、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の運営を行っている。

<現在の担当科目一覧>

大学名	学部・学科・専攻	担当科目
育英大学	教育学部 教育学科 児童教育専攻 幼児教育コース	「幼児と健康」「幼児と環境」「保育内容（健康）の指導法」「保育内容（環境）の指導法」、「初等学校体験活動A」「幼児教育実習事前事後指導」「幼児教育実習」「授業実践演習」「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」「総合ゼミⅠ・Ⅱ」「教育学研究法Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」「保育・教職実践演習」

学内分掌においては、教務委員会、実習委員会、学生募集委員会等に所属している。

部活動においては、吹奏楽部の顧問を担当している。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

専門分野の研究テーマ等

私は、幼児教育学・保育学を専門としており、その中でも保育現場における子どもの怪我や事故の実態等を対象とする「学校安全」や「安全に関する指導」を中心に研究を行っている。また、保育者養成校に所属してからは、「保育者養成」に関する研究にも取り組んでおり、保育者養成の質向上に関する研究を個人研究や共同研究で実施してきた。さらに、

養成校の学生のみならず保育現場の保育者を対象とした「保育現場の質向上を目指した幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイドブック」等の作成も行っている。

以上の様な研究の背景から、乳幼児期から保育者までの幅広い年齢層を対象とした幼児教育学・保育学をテーマとした研究に取り組んでいる。

学生への学習に対する理念

私が担当している科目については、幼稚園教諭・保育士・保育教諭になる上で非常に重要な科目であると考えている。そのため、基礎的な内容の理解から、実践的な指導力等の総合的な力が必要である。学生指導を行う際にはそのことを踏まえ、基礎的な知識を備えた上で、実践的な指導力が身に付くよう、メリハリのある授業展開を心がけ、さらに学生たちが意欲的に授業に取り組めるように実践例を交えながら授業を実施している。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

具体的な教育上の実践

- ① 講義系の科目においては、毎授業パワーポイントを使用し、資料においては全て印刷物として配布を行っている。さらに授業内容がまとめられた資料を配布し、重要点の振り返りができるような工夫を行っている。
- ② 演習系の科目においては、グループワーク等を取り入れ、他の学生と共に学びながら授業に取り組めるような工夫を行っている。
- ③ 実習系の科目においては、学生たちが見通しをもてるような見本等の提示を心がけている。ただ単に見本を配布するだけではなく、手本となる箇所や専門分野で重要となる表現方法等の説明等も細かく行っている。
- ④ 実習系の教材については、保育現場で求められている「手作り」の教材を自身で作成し、見本として提示することを心がけている。
- ⑤ 毎授業の最後には必ず不明な点、解説が必要な点等の確認を行い、学生の理解が深まる様な配慮を心がけている。

学生との関係構築のための工夫や配慮

学生との関係構築を行う上で配慮している点は、授業においては、受講している学生全員に目を向け、教員の一方的な授業にならないように声をかけるように心がけている。

授業外においても、日々の挨拶や会話等を心がけ、積極的にコミュニケーションをとる

ように努めている。その他、相談に応じる際には学生が求めるコミュニケーションツール（対面・メール・電話等）に応じて相談にのるようにしている。

シラバスや教材の工夫

シラバスにおいては、各科目において必要とされる内容が網羅されるように基礎的内容から応用内容までが総合的に含まれるように作成している。また、座学的な内容と演習的な内容をバランスよく配置し、学生が意欲的に授業に取り組めるような配慮を行っている。

教材においては、学生に負担がかからないように、資料等については毎時間印刷物として配布することを心がけている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

学生による授業への評価

育英大学で担当している「幼児と環境」「授業実践演習」では、令和7年度に実施された「学生による授業評価アンケート」結果より、優秀教員として顕彰を受けた。以上の結果から、学生による授業への評価については総合的にみて良い結果であると受け止めている。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

短期的な目標

- ・様々な学生に対応した「学びの機会」が提供できるようにしていきたいと考えている。
- ・同じ夢を目指す学生同士が共に学び合い、相乗効果を得られるように授業内においては、グループワーク等の話し合いの機会を多く取り入れていきたい。
- ・専門分野である幼児教育・保育分野においては、日々、めまぐるしく変化してきているため、最新の情報を学生たちに提供していきたい。
- ・学生と保育現場との繋がりを提供できる機会を多く設けていきたい。

中期的な目標

- ・時代の変化に対応できる保育者養成が行える様に、短期的な目標で掲げた目標を積み重ね、保育者を目指す学生たちが社会に出た際に困らないような時代のニーズに応じた保育者養成を心がけていきたい。